

事業系（可燃ごみ）搬入車両実態調査結果（中間報告）

1 調査目的

事業系ごみの搬入実態を把握、分析し、今後の事業系ごみの適正処理及び減量化に資するため

2 実施期間

平成18年8月22日から平成18年8月31日まで（土日を除く）

3 調査方法

事業系ごみを清掃センターへ搬入している一般廃棄物処理業許可業者（8社）の車両を任意に選択し、積載したごみを空け種類別に仕分けを行い、その重量を測定する。

4 調査結果

		A社 8/22AM		B社 8/22PM		C社 8/23AM		合 計	
		重量 kg	構成率	重量 kg	構成率	重量 kg	構成率	重量 kg	構成率
資源物	金属・缶類	0.8	0.05	5.6	0.47	2.8	0.23	9.2	0.23
	ビン類	-	-	2.2	0.19	1.7	0.14	3.9	0.10
	ペットボトル	12.8	0.77	3.3	0.28	37.4	3.09	53.5	1.31
	段ボール	117.7	7.05	138.8	11.76	171.0	14.13	427.5	10.53
	古紙類	284.1	17.01	256.0	21.69	150.9	12.47	691.0	17.02
木くず		85.6	5.13	39.1	3.31	4.0	0.33	128.7	3.17
ビニール系		57.9	3.47	118.0	10.00	36.8	3.04	212.7	5.24
廃プラスチック		14.3	0.86	-	-	-	-	14.3	0.35
発砲スチロール		3.4	0.20	6.0	0.51	1.0	0.08	10.4	0.26
研磨材		-	-	15.0	1.27	-	-	15.0	0.37
その他(生ごみ、食品残渣、シュレッダーごみ)		1,093.4	65.46	596.0	50.52	804.4	66.49	2,493.8	61.42
計		1,670.0	100.00	1,180.0	100.00	1,210.0	100.00	4,060.0	100.00

今回の調査による3社全体の特徴としては、

- ① 資源物5種類の割合が約29%を占めた。
- ② 廃プラスチック類の割合が約6%を占めた。
- ③ ビニール系の袋などがかなり多かった。
- ④ 不良品や売れ残り製品があった。
- ⑤ 弁当、食品の残飯が目立った。
- ⑥ 可燃ごみ以外の金属・缶類、空瓶が混入していた。
- ⑦ 盆花、市外の紙ごみ（伝票・封筒で確認）があった。
- ⑧ 新聞、チラシ、雑誌は少なかった。